



連載 第24回

## スパタイGPの醍醐味とは?

モータージャーナリスト、レーシングドライバー、そしてチューナーと多方面で活躍する太田哲也が、世の中に自らのオビニオンを直球で発信し世相を斬る「オレの話を聞け!」。第24回は、太田氏が校長を務めるドライビングレッスンと併催されるタイムアタック形式の競技「スパタイGP」について。なぜスクールと共に行うのか、またその醍醐味を語る。

REPORT ● 太田哲也 (Tetsuya Ota)  
PHOTO ● 市 健治 (Kenji Ichi) / 関根健司 (Kenji Sekine)

### オレの野望(夢)

ドライビングレッスンと共にスパタイGPをなぜ始め、どこを目指し、参加者に対してどんな影響を与えたいと考えているのか。モータースポーツの底辺拡大を図りながら、安全運転にもつながり一般社会とも接点を持つようにしたい。そしてモータースポーツの「真の醍醐味」も味あわせたい。そのためどんな仕組みを取り入れているのか、そしてどんなイベントに発展させたいと考えているのか、その野望(夢)について触れよう。

### スパタイGPとは

スパタイGPとは「スーパータイムアタック・グランプリ」の略で、「ドライビング技術のみでなく精神力の強さも競う新しいタイプのモータースポーツ」である。オレが校長を務め、スパタイGP運営委員会が運営する。

練習走行後に行われる本戦では、実況放送が流れ注目を集める中、1台ずつ1周のみのタイムアタックを行う。フリー走行会のように他車に引つかかることもなく、確実なクリアラップが取れる「一周入魂」のタイムアタックで、マシンとドライバーのパフォーマンスがどれだけ発揮できるかを競う。たったひとりでサーキットを占有する最高の舞台だ。

## 太田哲也の

# オレの話を聞け!

### 精神力とドラテクのせめぎ合いー仕組まれたトラップ

スパタイGPの特徴として、速さだけではなく、精神力も試す場としての仕組みを組み込んでいる。

たった1周だからスタート前は緊張し、頭の中ではこれからどう走って好タイムを出すかに集中しているはずだ。ところがその1点だけに集中すると失敗してしまうように「トラップ」が組み込まれている。たとえばタイムアタックに入る際、計測ライン手前でライトオン、終わったらライトオフを義務付けるレギュレーションもそのひとつ。

実際に今回、アマチュアレース経験の豊富なH誌編集者が賞状外扱いで参戦したが、まんまとライトオンを忘れてまさかの無灯火、失格となった。「いやあ覚えていたはずなのに、アタックに入ったら集中して忘れてしまったんですよ」と。

それ以外にも計測中はもちろんアウトラップでもスピニングやコースアウトは厳禁、即失格。

タイムアタック終了でもチェックカーフラッグは振られない。自分で周回数数を数えてピットインしてこ

なければならぬ。サーキットを走った人ならわかるだろうけど、タイムアタックに集中すると他のことが考えられなくなるものだ。気にしていないと2周目に入ってしまうこともある。この場合も失格。

コースインして1周してすぐにアタックだから、タイヤは温まり切っていない。グリップ力も本来ではないが、それで第1コーナーに突入することとなる。グリップ力に影響を及ぼすタイヤの温め方も重要だし、冷えてグリップが十分でないタイヤでの走り方も大切だ。

だからこそ奥深いし、面白いのだ。と言うのも、その昔、プロのレースは決勝タイヤよりも3秒も4秒もタイムアップするQFというタイヤで予選が行われていた。オレはGC(グランチャン)のレースで経験したが本当に1周しか保たないので、最終コーナー手前までゆっくり走ってきて、そこからドンと全開にする。どの程度温まっているかは第1コーナーでブレーキを踏んでみるまでわからない。だからと言って早めに温めすぎると1周してきた最終コーナーでタイヤがブローしてしまう。あれは刺激的だったなあ。スパタイのドライ

スパタイGPとは「スーパータイムアタック・グランプリ」の略で、「ドライビング技術のみでなく精神力の強さも競う新しいタイプのモータースポーツ」である。オレが校長を務め、スパタイGP運営委員会が運営する。

バーにも、QFタイヤほど過激ではないが、あのびりびりした緊張感とわくわく感を味あわせてあげたいと思う。

それ以外にもドライバーが気にかけるなければならない様々な要素(トラップ)がある。それに対処できる知識と判断力が必要だ。どのコーナーを捨てどのコーナーを生かすか、どの程度安全マージンを置きつつタイムを落とさないようにするか。タイムアタックだけでなく、いくつもの要素が絡み合うのだ。

### ドライビングアドバイスも行う

「やたら難しそうだなあ」と思う人もいるかもしれないが、本来、運転とはサーキットに限らず公道においても、同時にいくつもの動作や判断が必要な高度な行為なのである。

とは言えまったくの初心者であってもドライビングレッスンのベシックレッスンを1日受け、次にアドバンスレッスンを1日受講すればスパタイGPに参加ができる。ちなみにベシック受講のレベルは、サーキットまで自分で運転して来られる人ならOKだ。そしてスパタイにス





### “スパタイGP”とは?

ドライビングレッスンと併催して5年間は開催してきたスーパータイムアタック・グランプリ(以下スパタイGP)を、去る1月11日にエキジビジョンマッチとして単独開催した。運営はスパタイGP運営委員会が行い、誰にでもチャンスがあるクラス分けとハンデを設定。排気量別に基本となるST2000、ST3000、ST5000の3クラスを設定し順位ごとに年間表彰を行う。上位入賞者はハンデキャップがタイム差により課されるので、他の選手が勝てるチャンスを出す。さらに同一車種やメーカーが一定数集まった場合はアバルト賞、ワーゲン賞、フィアット500賞などを設け、シリーズを通して白熱したタイムアタックが楽しめる。過度のチューニングやGTウイングの装着、エンジン内の改造などは禁止し、法規則にのっとったクルマで競う。



本誌でもお馴染みの池沢早人氏が、賞金外ながら911カレラSを駆って参戦。以前に種々道を走ったときはハードウエットで実質今回が初走行に近かったにも関わらず、総合4番手に入る好成績を挙げたのはさすが。経験豊富な池沢氏もスパタイGPを楽しんでいた。

「スパタイGPを極めることでそういうクセが自然と身につくはずだ。そうしてリスクマネージメント力を身につければ、危険だらけの公道においても事故に遭わない能力が身につくはずだと信じている。こうした点もモータースポーツと一般社会が乖離しない接点になれる



### 次回のレッスン教習車はマスタング!

2月28日(土)、袖ヶ浦フォレストレースウェイにて「Tetsuya Ota ENJOY & SAFETY DRIVING LESSON with FORD」が開催決定。当スクールは「安全運転を楽しく学ぶ」というテーマのほか、「Injured ZERO」をスローガンに掲げて開催8年目を迎える。当日は発売前の新型マスタングが教習車として登場し、パドックでの体験試乗やサーキットタクシーなども行われるほか、サーキット初心者から経験者まで3つのプログラムに分かれて、太田哲也校長他講師陣を迎えてレッスンが行われる。マスタング体験試乗会やスパタイGPも行われる予定だ。詳細はウェブにて、<http://www.sportsdriving.jp> ☎045-948-5540

「Injured ZERO」を提言  
タイムよりも安全面とマナーの方が重要だ。Tetsuya Otaドライビングレッスンでは、国交省から後援を頂いた「Injured ZEROプロジェクト」のコンセプトをスパタイGPでも掲げ、「当スクールに参加する受講生・関係者につい

て、一般道における死亡・負傷事故をゼロとすることを目標とする」。そのためには他者をリスベクトすることが重要だ。とかく走行会では他車との接触によるトラブル話が聞こえてくるが、そうした事が起きないようにするために安全やマナーもテクニックの1種として捉え、それを履行するための具体的な手段として独自の「サーキットの安全心得」を読み上げている。基本精神は何度も強調するが他者をリスベクトする気持ちだ。

「太田さん、くれぐれも気をつけて走ってくださいね」  
「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。

「誰に言っただけ、オレがコースアウトしたりクラッシュするはずがないだろ(心の声)」と思っただけ、驚いたことに今まで現役ドライバーがここで何人もコースアウトしているらしい。



成績上位者には協賛メーカーから賞品も提供される。プリチストンからは発表されたばかりのポテンザREZIRが贈られていた。こうした余録もモチベーションに繋がるだろう。